

令和六年 隠岐後鳥羽院和歌大賞

歌題 島

入賞作品

古事記編纂一三〇〇年記念大賞

海霧の絶え間に入日差し染めて錦ににほふ隠岐の八十島

東京都 佐合井 昇

隠岐後鳥羽院和歌大賞

真木の戸をたたく水鶏そあはれなる訪ふ舟絶ゆる島の夕暮れ

埼玉県 関口祐未

選者賞 冷泉貴実子選

夕暮れの八十島浮かふ瀬戸の海古巣に帰る雁の一群

滋賀県 松岡壽子

公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫賞

海士小舟行きかふ島の朝明けに渚をわたる夏の浦風

兵庫県 岡田優志

水無瀬神宮賞

都なる母の御元へ飛べ千鳥いかに御座すか我に伝へよ

岐阜県

西尾嘉浩

出雲大社賞

大島の浜の真砂に藻塩汲む海人に吹きそふ月の浦風

京都府

吉尾 薫

大阪天満宮賞

夕されは潮風寒み隠岐の島磯馴松に寄する白波

東京都

村上典吏子

住吉大社賞

遠の島雲のまにまに飛ぶ雁の数さえ見ゆる澄みし月影

京都府

小林なおこ

城南宮 鳥羽殿賞

むらむらになびく霞に淡路島見えみ見えずみ春は来にけり

東京都

梶間和歌

海士町長賞

隠岐島漁人の苫屋に宿借れば夜半も轟く荒磯の波音

岩手県 森内詩紋

隠岐ユネスコ世界ジオパーク賞

暮れなづむあふみのうみの島かげにいさり火ほのかに海人の釣舟 埼玉県 木下常世

入選作品

渚ゆけば満ち来る潮ののどかなる隠岐の島辺ぞ常とこなつかしき(なみのおと)

兵庫県

小竹 哲

空の青海の青もが穏やかな隠岐の丘には草食む小馬

大阪府

加藤和子

しほがまの浦の水面の月影に波の音聞く海人のつり舟

大阪府

浅野敬一

荒磯なる島に打ち寄す波高し静かに照らす月ぞさやけき

東京都

斉藤典子

大島の外まで照らす月影にとわたる鶴の声のさやけき

兵庫県

唐澤まちこ

花を詠み月を詠みては平らかな心保たば島優しかり

愛知県

稲葉房子

山躑躅燃ゆるがごとき田束山の嶺よりはるか青き八十島

宮城県

角田正雄

夕さりてゆるる漁り火ささ波の渚に寄する 音もかそけし

長崎県

小旗くみ子

夕なぎの明石の浦に入日さし向かふ淡路を千々に染めけり

埼玉県

山中逸平

虚貝ちらし白波退きゆけば祈りの島に夕映え満ちる

熊本県

吉野佳子

小夜ふけて漁火ゆるる隠岐島清き水面に月影映ゆる

宮城県

熱田民恵

過ぎし日の心伝える浜苞の磯の香りにしはし微睡む

兵庫県

濱崎要子

渡り来る島のかもめのこゑに和し寄するささめき春の潮の

青森県

木立 徹

夕風の島廻に寄するさざ波に小舟のひとつひそと揺れおり

東京都

松阪ようこ

八十島の朝な夕なの波の音にしば鳴き紡ぐは千鳥の声かも

大阪府

足立慶子

春されば明石の門より見はるかす大和嶋根に霞立つ見ゆ

兵庫県

齋藤英昭

朝ほらけ立つ波白き沖つ島見え隠れ行く海士の小舟よ

東京都

阿久津ひろみ

島山の入日を洗ふ沖つ波数そふ舟は早こき帰る

東京都

中嶋康夫

大君の降り立つ島の荒磯に田鶴鳴き渡る秋の夕暮れ

千葉県

宿谷睦夫

月の出を待ちて小舟を漕ぎ出づる遠の島影漁り火に見ゆ

群馬県

関 弘子

朝ほらけいさ漕ぎいてよあまお舟たゆたふ小波浦風の島

新潟県

渡辺由季

波さわぎ舟もかよはぬ島の夜の火影に浮かぶ遠き面影

神奈川県

海 螢

隠岐の島都を遠見佇めば袖吹き返す秋風ぞ吹く

山口県 大木正徳

海人の焚く漁り火ゆらす秋風に霧晴れて見ゆ隠岐の島影

東京都 徳植弘幸

風待ちの入り江に集ふ水夫たちのお国言葉の優しくもあるか

兵庫県 藤原紘一

波の音をたのみに歩む松原を抜けてさやけし沖の島影

佐賀県 檜崎美穂子

島影のかすむ朝に漕ぎ出でて聲ものどけし網引する海人

兵庫県 西村資子

秋深み夕陽とどかぬ島隈に齒朶の葉群は小刻みに揺る

静岡県 鈴木昭紀

人去りし夕づく浜に縞のごと翳伴ひてひた寄する波

滋賀県 吉田邦子

浪の上映つる入り陽はゆらめきて隠岐の島影夜に落ちゆく

兵庫県 吉本朱見

わたの原薄墨しるき隠岐の島君思いつつ舟こきゆきぬ

東京都 徳井まさ

風あらみ磯しふき立つ岬より遠の島影手をかさし見む

東京都 古賀のり子

雨あがり波の音もしづまり穏やかな水面に映る島の影かな

東京都 富田恵子

いつくしまめぐる七浦かむさびて月待つかぜにいとたけのおと 東京都 宇治君秋

小夜ふけて千鳥眠りし沖の島に果つることなく波音の立つ 長崎県 平山恭子

いまいちど訪いたし青き隠岐島宵に詣でしみ社想ふ 京都府 鮎本ミツ子

手を振りし人の姿も朧げに去りゆく島や心に染みて 東京都 西川憲昭

月の夜八十島かけて漕ぎ出でぬ明石の浦の海人の釣舟 神奈川県 横山隆行

隠岐の島かすかに響く波の音閑けき杜に秋は暮れゆく 長崎県 宇野聡子

隠岐島荒磯に濡るる我か袖に 幾秋宿す有明の影 大阪府 若松早穂子

岬より返らぬ島をのぞむれば遠流の君の胸に迫り来 北海道 西井健治

墨染めの海より来たる白波を便りに思ふ松の浜辺に 茨城県 坂上くも

霧ふかみ島のみなとへ行くふねはかもめの声をしるべにぞする 東京都 攝津

わたのはら島隠れゆくあま舟のあとを慕ひていづる月かげ 東京都 圓学法師

朝ぼらけ遠つ島なみ見えてより舟こぐ音のとくぞなりゆく

東京都

藤井俊明

明石瀉出づれば見ゆる淡路島寄る白波に月かたぶきぬ

東京都

駒野 繭

見わたせば時雨にけふるわたのはら袖ぬらすらむ隠岐の島守

京都府

小林賢太

遠の島磯まをわけてゆく舟の昔の光見る心地する

隠岐郡海士町

榊原有紀

君を恋ふるなみだは消えじおきの島に漕ぎゆく舟の跡絶ゆるとも

大阪府

柁木理花

朝霧に遠の島々かすみ行き 沖ゆく舟の見えつ隠れつ

長崎県

芦塚寿重

離れ島 友は去り行く 都路へ ふる里遠く 月も傾く

群馬県

大澤一雄